

我が国の大学における核融合研究に関するアーカイブズ

Archival Studies on the Nuclear Fusion Research at Universities in Japan

難波忠清、藤田順治¹⁾、大林治夫¹⁾、寺嶋由之介²⁾、木村一枝、西尾成子³⁾、植松英穂³⁾、佐藤浩之助⁴⁾、佐藤徳芳⁵⁾、高岩義信⁶⁾、川上一郎⁷⁾、竹田辰興⁸⁾、小島智恵子⁹⁾、狐崎晶雄¹⁰⁾

核融合研、¹⁾核融合研(名誉教授) ²⁾名大(名誉教授) ³⁾日大理工、⁴⁾九大応力研、⁵⁾東北大(名誉教授) ⁶⁾高エネルギー加速器研究機構、⁷⁾日大(名誉教授) ⁸⁾電通大、⁹⁾日大商、¹⁰⁾高度情報科学技術研究機構

NAMBA, C., FUJITA, J. ¹⁾, ODAYASHI, H. ¹⁾, TERASHIMA, Y. ²⁾, KIMURA, K., NISIO, S. ³⁾, UEMATSU, E. ³⁾, SATO, K.N. ⁴⁾, SATO, N. ⁵⁾, TAKAIWA, Y. ⁶⁾, KAWAKAMI, I. ⁷⁾, TAKEDA, T. ⁸⁾, KOJIMA, C. ⁹⁾, KITSUNEZAKI, A. ¹⁰⁾,

NIFS, ¹⁾NIFS(Prof. Em.), ²⁾Nagoya Univ. (Prof. Em.), ³⁾Nihon Univ., Col of Sci. & Tech. ⁴⁾ Kyushu Univ., RIAM, ⁵⁾Tohoku Univ. (Prof. Em.), ⁶⁾KEK, IPNS, ⁷⁾Nihon Univ. (Prof. Em.), ⁸⁾Univ. of Elec.-Comm., ⁹⁾ Nihon Univ. Col. of Bus., ¹⁰⁾RIST

1. 調査研究の背景と目的

我が国の大学における核融合研究開発が如何に進められてきたかについて歴史的な資料に基づき明らかにしていくことは、社会と他分野の研究者に対する説明責任を果たすためにも、また今後の研究の進展を図るためにも必要不可欠である。このような観点で研究推進に係わる基本的資料を、収集・整理・データベース化することにより、広く関係研究者等の利用に供しようという目的のもとに、NIFS の共同研究として関連資料を中心とした調査研究を進めている。今回は、資料調査研究一つとして、インタビュー形式に基づくオーラルヒストリーの手法について報告する。

2. アーカイブズ手法としてのオーラルヒストリー

- (1) アーカイブズ整備の最も基本的な手法は、既存の史料の収集、未知の史料の発掘とそれらの整理・データベース化であるが、収集された資料の中には相互関係が明確でないもの、欠落部が存在するケースがある。それらを補完しさらには新たな史料の発掘に役立たせるためにオーラルヒストリーと呼称される手法が活用される。
- (2) 能動的資料収集の一環として、インタビュー形式での資料化を試みている。関口忠・東大名誉教授への2回にわたるインタビュー [第1回記録：NIFS-MEMO-33、第2回記録：NIFS-MEMO-40] に続き、松浦清剛・名古屋大学名誉教授に対して2004年1月、『名古屋大学プラズマ研究所の第3次将来計画検討から移転・改組まで』をテーマにインタビューを実施した [この記録は現在、編集作業中である]

3. インタビュー形式での資料収集の問題点と今後の課題

- (1) インタビュー対象者及びテーマの選定： 核融合研究開発の歴史上、その証言を遺してほしいキーパーソンを系統的な選定、議論の多かった学問上あるいは研究体制上のテーマの検討と設定
- (2) オーラルヒストリーの手法研究と技術向上： インタビューの事前準備(方針設定、本人の同意確認、資料・年表の用意、質問の作成)、実施上の問題(進行、記録の方法)、事後処理(資料化、記録の編集・管理、保存、等)
- (3) 共有一次史料としてのオーラルヒストリー： 研究・教育上の活用、史料情報開示(そのための基準策定、個人情報保護、具体的公開方式、等)